

第703回 新潟医学会次第

第703回新潟医学会を下記の要領によって開催致しますので何卒多数ご来聴下さいませようご案内申し上げます。

日時 平成26年11月15日(土) 午後1時30分から
会場 新潟大学医学部 有壬記念館

新潟医学会集会幹事

記

I. 特別講演 (午後1時30分～2時) 座長 神吉 智丈 先生 (バイオシグナリング分野 教授) 「オートファジー：その破綻と疾患」

小松 雅明 先生 (分子遺伝学 教授)

細胞は酸化ストレスや細菌感染などの非常事態に適応するため巧妙なストレス応答機構を發動する。オートファジーは小胞体ないしはその近傍の構造体から出現した構造体が伸長して細胞質成分を取り囲んだオートファゴソームが形成される過程と、生じたオートファゴソームがリソソームと融合し内容を消化する2つの過程から構成されている。この細胞内分解システムは膜電位を消失したミトコンドリア等の異常細胞内小器官や細胞内侵入細菌を排除し、細胞の恒常性維持を担う。したがって、その調節不全はパーキンソン病、感染症やがんなどのヒト疾患と関連する。我々は、世界に先駆けて臓器特異的オートファジー欠損マウスを作成、解析し、高等動物オートファジーの病態生理的意義を明らかにしてきた。本講演では、その研究成果を概説する。

II. 特別講演 (午後2時～2時30分) 座長 曾根 博仁 先生 (血液・内分泌・代謝内科学 教授) 「悪性リンパ腫～診断と治療の進歩～」

瀧澤 淳 先生 (血液・内分泌・代謝内科学 准教授)

悪性リンパ腫は様々な分化段階のリンパ球が腫瘍化したもので多数の疾患単位の集合体である。疾患単位を確定するには生検による病理組織診断が不可欠であるが、近年の分子生物学的解析法の進歩により疾患単位に特徴的な遺伝子異常が明らかにされつつある。これらを標的とした新規薬剤の開発が進んでいる。

抗体療法(リツキシマブ：抗CD20キメラ抗体)の導入により悪性リンパ腫の治療成績は向上した。2012年以降、新規抗体薬(モガムリズマブ：抗CCR4抗体、オファツムマブ：ヒト型CD20抗体、ブレンツキシマブ ベドチン：抗CD30抗体)が国内承認され日常臨床に導入されている。

III. 特別講演 (午後2時30分～3時) 座長 佐藤 昇 先生 (肉 眼 解 剖 学 教授) 「ジストニア症状を示す遺伝性神経難病モデルマウスの作製と解析」

竹林 浩秀 先生 (神 経 解 剖 学 教授)

我々は、細胞骨格のアクチンに結合するドメインをもつ *dystonin* を破壊した遺伝子改変マウスを作製し、ジストニア症状を示す遺伝性神経難病モデルマウスの確立に成功した。本マウスは、自然発生変異マウスの *dystonia musculorum* と同様の症状を示し、感覚神経の変性像も観察された。本マウスは、ジストニアおよび感覚性ニューロパチーの病態解析、および、治療標的の同定に非常に有用なモデルマウスであると考えられる。

IV. シンポジウム (午後3時～5時)

司会 吉村 宣彦 先生 (放 射 線 部 准教授)
石川 浩志 先生 (放 射 線 医 学 講師)

「画像診断の進歩」

(シンポジスト)

1. 胸部画像診断：最近の話題

石川 浩志 先生 (放 射 線 医 学 講師)

2. 女性骨盤領域におけるMRI診断の現状

麻谷 美奈 先生 (放 射 線 医 学 助教)

3. 肝EOB造影MRIの最近の話題とピットフォール

高野 徹 先生 (放 射 線 医 学 助教)

4. オートプシー・イメージング：現況と将来

高橋 直也 先生

(保健学科 放射線技術科学専攻 教授)

新潟県医師会生涯教育講座の認定を受けております。

大 学 院 特 別 講 義

大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎致します。参加料は無料、事前申込の必要はございません。自由に御参加下さい。

当日は医学部職員駐車場のゲートが開いておりますので、ご利用下さい。